

## 新任ご挨拶

院長 与芝 真彰

## 心臓血管外科紹介

—新たなスタート台に立って—

部長 川合 明彦

## 新任医師のご紹介

お知らせ

## News &amp; News

●第5回港区医師会  
せんぼ東京高輪病院合同  
「マナー&エチケットセミナー」  
開催報告

●第5回せんぼ高輪医療セミナーの  
開催報告

●第8回せんぼ医療感染講習会の  
お知らせ

vol.24  
2009.5.1せんぼだより  
うえーぶ  
Wave

せんぼ

東京高輪病院

地域医療連絡室

〒108-8606

東京都港区高輪3丁目10番11号

tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570

URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

## 病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

## 新任ご挨拶

せんぼ東京高輪病院  
院長よしぼ しんしょう  
与芝 真彰

この4月から戸田名誉院長の後任として病院長に就任した与芝真彰と申します。出身の医局は戸田名誉院長や、前川内科管理部長と同じ東京大学旧第一内科（現在は感染症内科ならびに消化器内科）で専門も同じ肝臓病・消化器病学です。東大に15年間勤務した後、昭和大学藤が丘病院に助教授として赴任後、平成13年より教授、15年から副院長、16年から病院長などを歴任しました。病院長時代は大きな医療事故の解決、DPCや7:1看護体制の導入など我国医療の激動期を経験し、現在の大学病院や基幹大病院の抱える困難な問題を体験しました。

これまでの人生を振り返って、私には他のドクターにはない特徴を2つ持っていると思っています。

その1つは専門領域が肝臓病の中でも珍しい救急疾患であり、しかも致死率が極めて高い劇症肝炎である事です。現在私は我が国で最も多くの患者を経験しています。この病気は一家の柱とも言える青壮年や小児が急激に発症し短時日のうちに死亡するため、極めて悲劇性が高い病気なのです。私が開発した種々の治療法が現在我が国の標準治療になっていますが、その開発の過程で多くの患者を失い、数々の悲劇の現場に立ち会ってきました。今でも心に残る症例が多いのですが、中でも32歳のHBVキャリアの劇症化の症例で、2人のいたいけな子供がおり、母親はすでにお腹に3人目の子を宿しており、3ヵ月以上に及ぶ治療の末3人目が生れた2日後に患者は死亡してしまいました。あの若い母親が3人の子を抱えてその後どのように生きたのか心に残ります。60歳をとうに過ぎたこの年まで一線の臨床医として何とか勤まっている理由は、助けられなかった患者達が私の背中に鞭打って叱咤激励してくれているからではないかとの思いがします。

その2番目は私は近隣の高輪1丁目にある松光寺という浄土宗寺院の住職をしている事です。本堂を貸間にするような文字通りの貧乏寺で、父親は家族の糊口をぬぐうため医師になり、昭和23年から61年火傷で突然死するまで高輪2丁目で開業医をしていました。おそらく近隣の老人の方の中には私の父を覚えている方も居られると思います。檀家の中に咳をしている人を目覚め見つけると寺の真向かいの診療所に連れていき、法衣の上から白衣を着て注射を打ったりした事を覚えています。という理由で私もあまり抵抗感はなく両方の職業に就いています。

多くの医療従事者の役割は病気を治す事ですから、その関心は当然患者の死までだと思います。患者が死亡してその御遺体を霊安室に送れば、また多忙な日常性へ戻ってしまいます。僧侶はそれからが出番です（我が国では医療と宗教が隔絶されているのは問題ですが）、その後を目撃します。死後いつまでも毎日墓参りをする遺族がいます。花や線香の煙がいつも絶えない墓もあります。愛する人の死がどれだけの悲しみを親しい人に残すのか、いやでも目にします。劇症肝炎での経験もそれを教えています。その人達にとってはまさに死によって悲しみの人生が始まるのです。医療人には日常の点景になっている人の死も各遺族にとっては大きな悲しみを与えるのです。その意味で我々は、人の死に絶対に慣れてはいけなと思います。

せんぼ東京高輪病院は東京でも多くの人達が憧れる高輪の地にある美しい病院です。職員の方たちが、ぜひ命の大切さに思いを致し、多くの患者さんの心をなごませる病院であるように努力していただきたいと思ひますし、私も微力を尽くす所存です。

# 心臓血管外科紹介 —新たなスタート台に立って—

部長 川合 明彦



平成 21 年 4 月 1 日より赴任し、鮎澤慶一医長とともに、常勤医として心臓血管外科を担当することになりました。当院の心臓血管外科は 2 年弱の休止期間があったとのことで、ソフト、ハードの両面から、再開というよりも、新規開設のつもりできめ細かく準備しています。

私は、東京女子医科大学、米国ピッツバーグ大学など、大学病院での臨床を中心に勤務し、日本胸部外科学会指導医、心臓血管外科専門医を取得しています。鮎澤医長は、東京女子医科大学のほか、NTT 東日本関東病院、聖隷浜松病院、仙台循環器病センターなど大学関連病院で幅広く研鑽を積み、外科専門医、心臓血管外科専門医を取得しています。二人の経歴を合わせることによって、広範な循環器疾患をカバーすることが可能となっています。

当院の心臓血管外科の診療内容を紹介します。

冠動脈疾患に対しては Off-Pump、On-Pump CABG を行うことはもちろんですが、左心室瘤、虚血性僧帽弁閉鎖不全など虚血性心疾患関連合併症にも定例手術、緊急手術を含めて対応いたします。

弁膜症手術は、患者さんの高齢化に伴って、増加傾向にあります。なかでも石灰化による大動脈弁狭窄症と退行性病変による僧帽弁閉鎖不全症を多く認めます。このような症例には、術後にワーファリンの必要がないように、生体弁による弁置換や弁形成術を行っています。

当院でも t-PA による脳梗塞の治療が脳神経外科で開始されていますが、日本人の脳梗塞の原因の約 1/3 は心原性血栓であるといわれています。その血栓の原因の多くは心房細動です。心房細動に対しては開心術中に心房細動の原因部位を高周波で焼却隔離する Maze 手術を行っています。

胸部、腹部大動脈瘤に対しては、緊急手術も含めて対応いたします。また大学病院との連携により大動脈瘤に対するステント術も治療選択のひとつと考えており、適応症例は大学でステント治療を受けていただくことが可能です。従来は手術適応なしとされた高齢者の方の動脈瘤も治療対象となってきています。閉塞性動脈硬化症 (ASO) などの末梢動脈疾患、血液透析患者さんのシャント作成、PTA なども対応しています。

拡張型心筋症の非代償期や透析症例などに伴う低心機能症例の心不全に対して、薬物療法は無効なときには、ペースメーカーを用いた心臓再同期療法 (CRT) が有効なことがあります。一般的な心臓血管外科手術に加えてこのような最新の治療法も取り入れていく方針です。

心臓血管外科は典型的なチーム医療です。大学病院から当院に来て、スタッフのフットワークのよさに感心するとともに心強く感じています。

先生方からご支援、ご指導をいただき積極的に救急医療を含めた地域医療に取り組んでいく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

新任医師のご紹介

平成21年4月付



よしくみ ひろき  
吉汲 宏毅  
内科部長



さかた ひろき  
坂田 宏樹  
外科医長



かわの けんいち  
川野 健一  
整形外科部長



たかはし ひであき  
高橋 秀彰  
整形外科医師



うりの ともゆき  
売野 智之  
脳神経外科医長



かわい あきひこ  
川合 明彦  
心臓血管外科部長



あゆさわ よしかず  
鮎澤 慶一  
心臓血管外科医長



こばやし まさひろ  
小林 正大  
皮膚科医師



いとう はるひこ  
伊藤 治彦  
放射線科医長



おおし まさる  
大橋 勝  
歯科口腔外科医師



しらい ひろき  
白井 裕生  
整形外科後期研修医

お知らせ

●DPC対象病院になりました

当院は平成21年4月1日よりDPC（診断群分類包括評価制度）対象病院となりました。入院医療費について今までの出来高による計算方式から病名・治療内容に応じて「包括評価」と「出来高評価」を組み合わせる計算方式に変わりました。

外来診療については今までどおりで変更ございません。

「DPC」は医療の質の標準化を目的に導入されるものであり、単に計算方式の変更だけではなく、良質な医療を効率的に提供し、医療の透明化をはかるために実施されるものです。

ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

●診療体制が変わりました

本ページで4月からの新任医師をご紹介します。永らく常勤医が欠員のためご不便をおかけしておりました放射線科に伊藤医長が赴任しました。併せてPACS（医用画像管理システム）も導入し、MRI、CT、RIについて順調に稼働しております。システム化によりご紹介患者の受け入れ・報告もスムーズになりました。皮膚科も常勤医師2人体制に戻り、従来どおりのご紹介患者の受け入れができることとなりました。また心臓血管外科につきましても2人体制となり、今後は手術も可能となり循環器センターも充実しております。昨年度までのご協力に感謝申し上げますとともに、新体制となった診療科になおいっそうのご支援・ご紹介を賜りますようお願い申し上げます。

第5回

## 港区医師会・せんぼ東京高輪病院合同 「マナー&エチケットセミナー」の開催報告

3月16日 7時から1階ホールで開催されました。

今回は、「医療のプロをめざして ～あなたがつくる病院・  
医院のイメージ～」と題してコミュニケーション・コーチン  
グ&カラー社の大橋美恵子先生の講演で行われました。

大橋先生は日本航空、駿台トラベル専門学校講師他  
の経歴を持ち、官公庁・企業等広く研修指導にあたって  
おります。日本航空の客室乗務員時代の経験を交えての  
講演のあと、参加者同士による接遇の基本動作や話法  
などの実技が行われ、その動作に対する指導と改善点の  
解説がありました。「常に笑顔絶やさないのが接遇の基本  
である」ということがテーマの講習会でした。

例年同様今回も外部医療機関からは43名と多くの皆  
様に出席いただきました。ご参加いただいた皆様に感謝  
申し上げます。ありがとうございました。



講演の様子



マナー&エチケットセミナー風景

第5回

## せんぼ高輪医療セミナーの 開催報告

4月20日 7時から外来ホールにて開催しました。

今回は「いくつになっても成長する脳～健全な脳番地  
が病を克服する～」の演題で、(株)脳の学校 代表 加  
藤俊徳先生の講演がありました。脳を植物にたとえて、  
成長するためには「光合成」が必要であり、脳の各番地  
(領域)ごとに鍛えることで幹は太くなり葉は繁る(成長す  
る)。太陽に代わるものは毎日続ける行動であるなど脳に  
対する新たな切り口で「脳ハウ1～脳ハウ10」と題した  
エピソードが展開され、興味深い講演でした。会場は超

満員の状況で、港区医師会赤枝会長、みなと保健所青  
山所長はじめ外部の医療機関・各団体から50名を超える  
皆様に出席いただきました。



第8回

## せんぼ医療感染講習会のお知らせ

日時 平成21年5月14日 木曜日

場所 当院 1階外来ホール

演題名：「予防接種の最近の話題」

講師 日本赤十字社医療センター  
小児科顧問 そのべともよし 菌部友良先生

ワクチンに関する第一人者である菌部先生を講師にお  
迎えして、最近の新しいワクチン・予防接種事情につい  
てのお話しをしていただきます。ぜひご参加ください。

### 編集後記



こいのぼり

4月も終わり、若葉の鮮やかな時期になりました。春は桜の花のように駆け足でとおりすぎたようで、ニュースでは「真夏日」を記録した地方の話も聞こえてくるなど初夏を思わせるこのごろです。花粉症もようやく一段落し、そろそろ夏の準備といったところでしょうか。当院も4月からDPCの導入や診療体制の変更でいろいろとご迷惑をおかけしたと思いますが、おかげさまで順調に稼働しております。

循環器センター、放射線科、皮膚科と新体制の診療科につきましても、ご紹介患者の受け入れには地域医療連絡室スタッフを含めて万全の体制でお待ちしておりますのでなにとぞよろしくお願いいたします。